

# トピックス

民俗資料室に

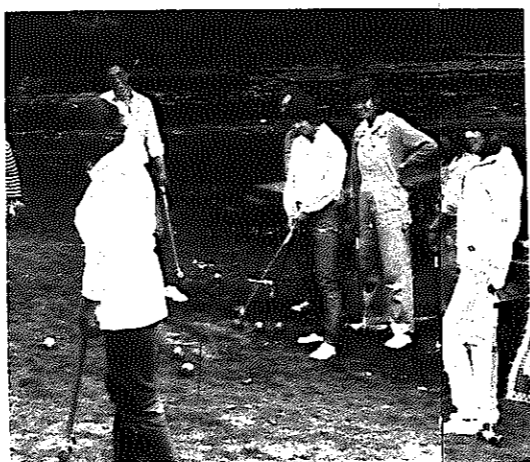
## 旧第四銀行白根支店が…

民俗資料室に旧第四銀行白根支店の模様が飾られました。これは第四銀行から贈られたものです。明治三十五年に建てられ、当時としては近代的な建築物といわれています。「ご覧になってください。」



## 秋晴れハイキング

青年講座合同ハイキングが、十月一日長岡市の八方台「県民いこいの森」で行われました。朝から秋晴れに恵まれ、絶好のハイキング日より——野外炊事、クローケーなどで、青春の一ページを楽しんでいました。



## ▼ 自転車も点検整備を

820台のうち整備不良車が180台——この数字は自転車組合白根支部の人たちが、白根小で児童の自転車を点検した結果です。組合の人たちは「事故にあわないよう、点検整備は忘れずに」と指導していました。



## ▶ 美男、美女コンテスト?

十月二十日、和泉工場団地で第一回白根地域畜産共進会が開かれました。この日は、当市をはじめ黒崎町、味方村などの近郷農家から、百六十頭余りの牛、豚が出品——美男、美女ぶりを競いました。



# 漢語修業 〈下〉

五郎平も腹ごしらえをしているところへ、こじきが「ハイチン」といって門に立ちました。女房は一文やりましたこれを見ていた五郎平は「ハハア、なるほど、ハイチンとは物をくれということだな」と合点し「もうこれで、しかも修業ができた。まあ、そろそろ帰りにしよう」と出かけました。金巻村を通れば、畑一面見ゆる限りのもの豊作。五郎平大いに感心して、いあわした夫に「何畑ですか」と、とえば「あらし畑です」（手を入れぬいい方）「なあーるほど、畑のことをあらし畑というな」と。さて家に帰り、かかには、しかしかの話なせば、かかは「うちのとは、何ばかりしてこられたや」と思えば

「オヤ、そうかい」といったきり「二、三日たつて五郎平うらの柿のまっかによむを見、一つもいで子どもにくれんと、木にのぼりし



にどうしたはずみか、ずどんと落ち下にあつた右に頭をうち血を流しました。いたさをこらえてから「医者、医者」と、よびたてます。何とどうと来て見れば、

文…木下牛太郎  
え…伊藤栄一

このようす。いたうちにも、この時こそせつかくの漢語と、すぐに手紙を書いて、かかにあすけました。やがて医者は、八字のひげをひねりながら、か

かに向かい「いったいお前の御亭主は、何をなさったのだい」かかもふしんに思い「そんならその手紙に、何が書いてございますか」「何があるってお前、おれにはサツパリ読めない。イヤ、読めても何とどたかわからんがね。まあちよつときいてくれ、こうだ。あらし畑に、朱塗の木一本阿利朱塗の実一つ、食いたきにつき、上落の節、下落して、石碑にひすをうち、朱塗流れ出でしによつて薬一服ハイチン。お前どうだね、わかるかね」聞くよりかかはことばなく、すぐ家にかかけつけ「ホンニ、お前はまあ、何ということであろう。いつももない手紙などいからこれは変だと思つたが、あんのじようこのさまだ。あんなもの、だれがわかるかい」とフンブン恐ろしいけんまく。「いったいきさまは、何をしたんだ」「どうしたつてこうしたつて、こんな手紙がわかるもんかい」「何、わからん」うでぐみをして、その手紙を見つめていたが、「なあーるほど、お医者様なんていえやがって、威張つていやがるが、だめなやつばかりだ。まだ漢語の一つも知りやしない」

# グループ登壇

## ジャズの流れる街に

S・J・C (白根モダンジャズクラブ)



S・J・C (会長 関根省三さん) は、ジャズファンに限らず、老若男女だれでも集まって、ジャズ談人生論、恋愛論などを話せるグループです。今年の正月に「朝日の如くさわやかに」をテーマにスタートしたこの会も、ようやく一年を迎えようとしています。会員は四人。いずれも生粋のジャズファンを自称する好青年たちです。「ジャズはうるさい、わからないといった先入観を捨て、リラック

### 〔会員の声〕



高橋正美さん

ジャズの中でも、静かなピアノトリオをよく聞くんですが、秋の夜には最高ですね。何といつても心にジーンと響いてきますから。

最近では、レコードを聞くだけで満足せず、ジャズバンドを結成「まだヨチヨチ歩きだが、何年後には生バンドでのコンサートを開いてみたい」と、ただ今、猛練習中とか。「あなたも秋の夜長—ふる上がり」にコービーでも飲みながら、静かにジャズピアノに耳を傾けてみてはいかがでしょう。ジャズに興味のある人は、お気軽に事務局(☎22-0733 関根省三宅)へ。

# 市民文芸

## 〈川柳〉

甘やかす九宮鳥は噁となる 吉川 彰  
歯だけまだ若いとリンゴ丸かじり 中村尚治  
泣かされる呼吸びつたり合つた芸 吉川末吉  
反抗期親の意見を聞きながし 岡村 清  
溜息をつきつき過保護捨て切れず 山岡フミ  
いけません駄目よでひよわい子に 大井義雄  
法要無事終わり安堵の胸おろす 成田吉子  
いざとなりや嘸みつく牙を持つ羊 長井徳市  
級酒も御神酒とあれば有難し 高橋祐四雄

## 〈俳句〉

秋霖の止まず煩杖ついて飽く 石田豊一  
一刷毛の雲追りけり十三夜 須戸義夫  
再会を胸にあたため十三夜 西山静江  
満月や下界はみんな生きてゐる 坪川桐太郎  
曼珠沙華お春に似たる恋地蔵 西山了空  
頼のまれし種もみ計る升の数 田中昭一  
名月やあの森あの街吸い盡す 石田豊実  
秋風や窓辺に寄れば月悲し 渡辺 勤



(17)